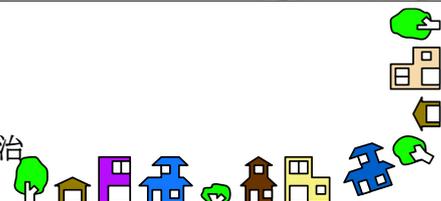
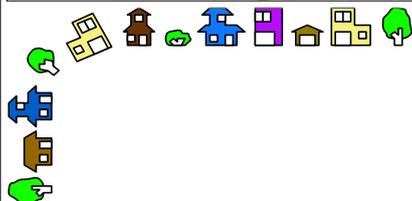


みどり山防災ニュース

発行：三輪緑山自治会自主防災隊編集委員会

三輪緑山3-1-13 ☎044-987-7495



緑山の防災

自主防災隊救出・救護班長 山形高治

住民の多くは「在宅避難」と想定される

防災について一般論はあまり意味がなく、その街、その街での防災が必要ではないかと考えております。それでは、緑山の場合はどうであろうか？

- ・海や川の近くではない。がけ崩れもほとんどないと思われる
- ・可能性が最も高い「首都直下地震」で緑山は現在震度6弱が想定されておりますが、その想定で倒壊する家屋は少ないと予想される（施工不良やシロアリ被害等は別）
- ・街へのアプローチ道路に課題があり、公的機関の支援が遅れる可能性が大きい

以上のような状況を考えて、住民の多くが電気・ガス・水道等のライフラインや物の供給が止った中での「在宅避難」を余儀なくされると考えられます。

（家の倒壊等の居住困難者や居住危険者は、避難所の「三輪小学校」に避難します）

住民にとって重要な防災対策は？

- ①火災を出さない：火災は、この街にとって最も大きなリスクです
- ②家具挟まれ等により大きな怪我をしない：家具の固定等が必要
- ③水・食糧等の備蓄（できれば1週間分）
- ④ライフライン代替：カセットコンロ、乾電池作動の電化製品、簡易トイレ等
- ⑤急遽、家庭外避難する時に備え「非常持出し袋（貴重品他）」の準備

（注）上記対策を行う場合は、以前配布された「東京防災」に詳細が記載されております。

「震度5強以上」で動き出す自治会の災害対策システム

- ①「災害対策本部」が、自治会役員・自主防災隊中心に「自治会集会所」に開設されます。自主防災隊は、情報・広報班、消火班、救出・救護班、避難・誘導班、給食・給水班で編成されております
- ②「自治会員の安否確認」：皆様が「無事です」プレート掲げる事により、自治会役員・班長による確認作業が行われます
- ③「避難行動要支援者」：事前登録された方々に対する支援の実施
- ④「自治会員からの支援物資の要請及び配布」：自治会経由で行います

怪我をした場合は、「鶴川記念病院」

この地域では、鶴川記念病院が災害拠点連携病院となっております。

水・食糧等の備蓄は「ローリングストック」で

最近備蓄については、日常使っている物品を備蓄し「ローリングストック」（使ったら買って在庫補充）を繰り返して対処する方法が普及しております。（次頁へ続く・・・）

水については、中央公園に「応急給水槽」が設置され非常に心強い話ですが、利用環境を考えると、あくまで自家備蓄の補完と考えておいた方が無難だと思います。

「ご近所力（共助）」を高め、より災害に強い緑山へ

阪神・淡路大震災では、公的機関が来ない中住民の助け合いで多くの方が救われたと聞いております。緑山でも公的機関の支援が遅れる可能性が高く、ご近所力の強化と防災知識習得を狙い「じゅんばん・まちかど防災訓練」を開催しております。ぜひご参加ください。

「救出・救護班」の活動

救出・救護班は、災害時に少しでも街の役に立ちたいとの思いを持つ仲間19名で活動しております。「市民レベルが行える救出・救護」に関する訓練を年5回程度、消防署の指導を受け和気あいあいとした雰囲気の中、技術の習得に努めております。災害時、少しでも皆様のお役にたてる事を願いつつ。

「災害時街の為に活動しても・・・」とお考えの方へ

自治会員約1370世帯に対し自主防災隊は約70名で参集率を考えるといかにも少ない状況です。災害時に家族や自分の身が安全であった場合、活動しても良いという方は、ぜひ自主防災隊として共に活動したいと思いますので自治会事務局までお電話ください。

<参考文献：柏木氏著「防災懇話会資料」、東京都発行「東京防災」>

震災の教訓を生かすために作られた「クロスロードクイズ」

このクイズは、阪神・淡路大震災で災害対応にあたった神戸市職員へのインタビューをもとに作成された防災教材です。クロスロードとは「岐路」「分かれ道」のことでそこから転じて重要な決断、判断のしどころを意味します。防災に関する取り組みにしばし見られるジレンマ「こちらを立てればあちらが立たず」を素材として自分自身で二者択一の設問にYES、NOの判断を下すことで防災を「他人事」ではなく「我が事」として切実で重要な問題として考えてみましょう。

問題：我が家には3日分の保存食と水があります。しかし、避難所では多くの家族が保存食や水を持って来ていません。あなたは自分の食料をみんなに分け与えますか？

YES まわりの人に分け与える NO きりがないので与えない

問題：真冬の朝方に地震が発生しました。避難所に指定されている小学校までは歩いて20分かかりますが、歩いて5分のところに集会所があります。まずは集会所に行きますか？

YES 避難所に行く NO 集会所で情報を聞く

問題：大地震のため、避難所（小学校体育館）に避難しなければなりません。家族同様の飼犬「もも」（ゴールデンリトリバー、メス3歳）も一緒に避難所に連れて行きますか？

YES 置いて行ったら可愛そうだから連れて行く NO 迷惑がかかるかた置いていく

問題：あなたは川沿いの集落の住民です。

母（65歳）、妻、小学生の子ども2人の4人家族。激しい雨が降り続けている。今、洪水の危険があるとして集落に避難勧告が出たことを防災無線で知った。しかし、現在深夜12時。今すぐ、避難を始める？

YES すぐに避難する NO しばらく様子を見る

解答 クロスロードクイズに正解はありません。自分の判断を下すときに考えることが減災、防災につながります。グループでゲーム形式にクイズを出してみんなで考えて意見を出し合うと自分の判断の参考にもなります。

シリーズ 「方丈記」 から自然災害を考える①

災害から学ぼう

「大阪北部地震」、「平成30年7月豪雨」、「北海道胆振東部地震」……。これらはどれも、2018年に起きた自然災害です。今年のみならず、ここ数年の間に、これまでと比べて、日本はより多くの自然災害に見舞われるようになってきています。そこで、その問題解決の指針として多くの分野の知恵が求められています。

さて先立つ関東大震災の後、そこから学んだ問題解決の指針が多く発表されました。そのときに最も多く引用された書物は何かご存知ですか？実は、鴨長明の「方丈記」なのです。

方丈記ってなに？

「ゆく河の流れは絶えずして……」と聞けば思い出すでしょう。そう、鴨長明（かもの ちようめい）が建暦二年（1212年）3月末頃に記した随筆文です。川の流れに事寄せて世の無常を説くくだりからはじまり、都を離れ山里の草庵に住んで得た安らぎを描いていきます。そして最後に突然、今の自分の世界に満足しそれを読者に誇示するというみずからの行為を批判、自問するものの、答え得ないまま念仏にすがるところで作品は閉じられます。中世隠者文学の傑作として古来読み継がれてきました。

今も昔も災害は人生をかえてしまう

格調の高い冒頭、草庵生活の独自の魅力、劇的な結末にももちろん惹かれますが、ここでは、なぜ長明が都を離れたかに注目しましょう。その理由の一つは災厄体験だったのです。方丈記には五つの災厄が迫真の描写で記されています。このうちの人災を除く四つが自然災害です：①大火、②竜巻、③飢饉、④地震。このシリーズでは、八百年という遥かなる時間を超えて「方丈記」が現代の私たちに語る、「災害に備えよ」との啓示を、肩の力を抜いて、学んでいきましょう！第一回目は、①大火です。

大風の火事では炎は上から下に

方丈記にある最初の災厄「安元の大火事」の描写を原文（と現代語訳）で見てください。

安元の大火事（1177年）……「方丈記」より

吹き速う風に、とかく移り行くほどに、扇をひろげたるがごとく末広になりぬ。遠き家は煙にむせび、近きあたりはひたすら焰（ほのお）を地に吹きつけたり。

（風の向きが変わるものだから、燃え移るうちに扇をひろげたように広がった。火から遠い家は煙にむせんでいるようであり、近いあたりの火は、炎を地に向かって吹きかけているように見えた。）

やや火から離れたところにある家は、延焼には至っていないものの、高熱によってまず煙がくすぶり始めました。その様子について、呼吸に支障をきたした生き物のように、むせんでいると表しています。また、すでに火勢の強くなってしまった所は、上に向かって吹き上げていた炎が、火災現場特有の気流の変化によって上から下（地面）に向かっており、その旋風のすさまじさを、火の意志に基づく行為のように「吹きつけたり」と表しています。現在の防災科学はこういいます。「現場の風速が増すに従って火は徐々に垂直から地面に対して平行に近付いていき、遂には上から下に向かうようになる。」

八百年前の長明のこの描写、文学的な味わいだけでなく、科学的にも驚くべき正確さ！上から下に吹きつける炎を現場で目の当たりにし、それはものすごい恐怖を感じたのでしょう。生涯忘れることなく、書き残し私たち後世に伝えずにはいられないほどだったのです。このメッセージをしっかり受け止め、そして想像しましょう。緑山の住宅街が不審火で燃えています。大風が吹いています。炎が上から下に吹きつけています。赤黒い炎を見る目も、熱さで焼けるようです。無力です。お手上げです。こうなる前に防ぐ工夫をなささい。と、長明先生がおっしゃっています。

大地震から自分と家族を守る家具固定

「うごく」ものの固定

耐震粘着マット(床固定)

ex. ダイニングテーブル・ベッド・テレビ台…

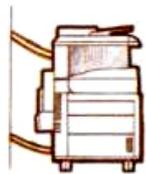
- ・底部に耐震粘着マットを貼り付ける
- ・重量やマットの種類で、必要枚数が異なるので注意する



キャスターロック+チェーンベルト/ベルト

ex. コピー機…

- ・転倒・移動軽減構造(キャスターロック、キャスターセミロック、アジャスター固定等)を使用し、チェーンやベルトで、背面側上部・下部などを壁に固定する



ご注意!

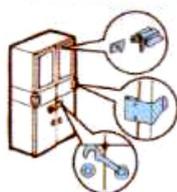
- ・しっかり固定するには機器の取付箇所、機器全体上下接合部の強度が必要です。
- ・最適な対応が重要となり、対応方法がメーカーや機種ごとに変わる場合があるため、販売店等にご相談ください。

「とぶ」ものの固定

ラッチ

ex. 食器棚・冷蔵庫・キャビネット類・書庫…

- ・開き戸・引出しにラッチを付け、収納物の飛出しを防ぐ
- ・飛出し防止ゴムや滑り防止布を敷くのも効果的



ストラップ式/耐震粘着マット

ex. PC類・レンジ・テレビ…

- ・電子機器類はストラップ式で固定する
- ・耐震粘着マットは強度を確認して選ぶ

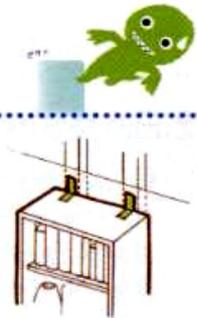


「たおれる」ものの固定

L字金具(壁固定)

ex. タンス・食器棚・冷蔵庫・サーバルック…

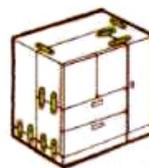
- ・L字金具を使い、壁に固定する
- ・固定位置は、柱や間柱・胴縁など丈夫な部分を選ぶ



平金具(連結)

ex. キャビネット・タンス・ガラス戸棚・書庫…

- ・平金具を使い、隣や背中合わせの家具と連結する
- ・段重ねの家具や、ハカマも連結は必要

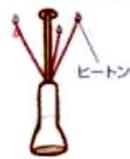


「おちる」ものの固定

ヒートン+チェーン(天井固定)

ex. 照明・額…

- ・強い力がかかるため、固定点の強度が重要
- ・ヒートンを使用し、チェーンや紐で天井の丈夫な部分と固定する

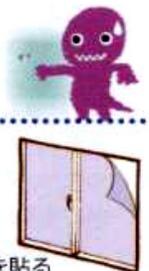


「われる」ものの対策

飛散防止フィルム

ex. ガラス戸棚・食器棚・ガラス窓…

- ・まず、ガラス戸棚・食器棚など家具自体を固定する
- ・ガラス部分全体に飛散防止ガラスフィルムを貼る



編集後記

共済という言葉がある。保険で良く耳にする言葉で、最近は民間の保険会社に拮抗する力をつけてきている、という話を聞いた。それが時代の流れなのかも知れず、皆の心の中に「力を合わせて助け合う」という共済という言葉の意味が根付いているのであれば、それはとても良い事だと思う。

個人主義が台頭している時代ではあるが、協力しなければ乗り越えられないものもある事を、誰に教えられる事もなく、人は自然と理解しているのかもしれない。